資　料　1

東日本大震災津波復興委員会
第９回総合企画専門委員会の審議概要

１　開催概要

(1)　日時等

平成 25 年３月 19 日（火）13：00～15：00　サンセール盛岡「鳳凰」

(2)　審議事項

・「復興実施計画」の進捗状況と今後の推進について

２　審議概要

総合企画専門委員会で審議された事項については、３月 28 日に開催する第 10 回復興委員会で審議することとなった。

なお、**審議中に出された主な意見**は、次のとおり。

➢　**「復興実施計画」の進捗状況について**

（谷藤委員、豊島委員）

・**事業進捗の「遅れ」の分析**については、今後、善後策を講じていくに当たって、遅れの要因が明らかになるように**分類の仕方を工夫すべき**。

（広田委員）

・「なりわい」は事業進捗が比較的進んでいるものの実感は伴っていない。仮設から本設への見通しはまだ立っておらず､本設に移る際は再投資の問題が生じてくるので、**中小企業者の再建支援を注意深く行っていく必要**がある。併せて、現在の地域経済は補助金等による**「施し経済」となっているので、復興のプロセスの中で通常の経済に戻していくことも必要**。

（谷藤委員）

・現在の**国の二重ローン対策は必ずしも根本的な対策ではなく、今後、課題が再浮上する恐れがある**ので、再検討が必要ではないか。

（平山委員）

・**今回の達成率を見ると、こんなに低いのかという印象**があり、まだまだ復興に向けて頑張っていく必要がある。

（広田委員）

・市町村や県の職員も一生懸命取り組んでおり、その上でのこの進捗状況であり、100％でなくてもやむをえないので、遅れの**原因分析と手当てが重要**。

（齋藤委員長）

・まちづくりを進める上で、**国の縦割りや平時の規制等が弊害**となっており、それが行政と住民とのわだかまりの遠因ともなっている。**県には国とのコーディネートの役割を担って欲しい**。

➢ **「復興実施計画」の今後の推進について**

※主に三陸創造プロジェクトの今後の具体化に関して議論

○ 「さんりく産業振興」プロジェクト

（谷藤委員）

・大量生産・大量消費型から多品種少量・一品生産型にものづくり産業は変化している。本県沿岸部には、**「コバルト合金開発」という世の中のトレンドに合致し、将来性のある事業があるのでプロジェクトの具体化の中で取り組んでいくべき**。

（緒方委員）

・三陸の水産資源は非常に質が高いので、良いものを高く売る視点も必要であり、三陸らしさを出しながら、そのための科学的な裏付けを与える研究機関等と連携を進めて欲しい。

○ 「新たな交流による地域づくり」プロジェクト

（広田委員）

・従来の地域コミュニティは分散しているものの、行政による支援は相対的に不足している。中越地震の際の集落支援員制度の導入を検討すべき。

・三陸復興国立公園については、自然との共生、体験型観光、防災といった従前の国立公園とは異なる新たな取組となっており、**県もプロモーション等の一翼を積極的に担っていくべき**。

○ 「さんりくエコタウン形成」プロジェクト

（豊島委員）

・洋上風力は関連産業の波及や人材育成等の効果が期待され、人口流出の歯止めになるものと期待される。

○ 今後の進め方

（広田委員）

・事業を組み立てる上で、**復興の理念を再確認**し、何のための復興で、どのように被災地等に役立つのかを意識すべき。

（平山委員）

・平成 25 年度は第 1 期基盤復興期間の最終年度であるので、**三陸創造プロジェクト等新しい取組の検討に入っていくことができるよう基盤をしっかり立て直すべき**。